

泉の自治だより

題字 額 健 二

No. 139

発行所 泉町連合区
発行責任者 連合区会長 額 健二
事務局 (泉公民館内)
土岐市泉中窯町 TEL 55-3653
編集部 長 安藤 新平

春待咲風微 吹鈴刺霜

篆刻同好会
小林 節夫



令和三年度泉町連合区より市への要望書が提出される

令和三年度泉町連合区会要望書

番号	要望事項	新規・継続の別	要望の詳細
R3-1	泉公民館の建設促進	継続	泉公民館は、市内で建設面積は他の公民館の半分約600㎡と狭く、昭和56年に建設されてから40年を経過し、耐用年数も余すところ10年となりました。給排水設備の老朽化と建設当時の設備内容では不十分で生涯学習施設として利用しづらい状況にあります。 その為、泉連合区として平成11年頃より新泉公民館建設を要望してまいりました。平成19年度には「泉町公共施設等整備促進協議会」を設置して広く町民の意見を集約して建設要望を進めてまいりました。今後については一日も早く建設が推進できるよう強く望みます。 建設可能な用地の確保、測量等を進める為の予算の早急の検討をお願いします。公民館建て替えには取り壊しから建設まで長期間を見越し、仮公民館を土岐市の遊休地にする等スムーズな公民館活動や運営が行われるよう配慮願います。 要望場所：土岐市泉中窯町1-1 泉公民館
R3-2	泉児童館の修繕・環境改善	継続	泉児童館は老朽化しておりますので、修繕、補修をお願いいたします。 1) 遊戯室の床の補修 ① 令和2年度に要望しましたが来年度以降検討しますと回答を得ています。 子供たちの為、更なる要望とします。 ② 冬場を快適に活動出来るように床暖房の設置をお願いします。 要望場所：泉神楽町1丁目74
R3-3	道路の建設	継続	本要望道路は、平成15年度に「住民参画型道づくり委員会」で協議し、その成果による要望であります。 現在、土岐アクアシルヴァの企業誘致、県道土岐可児線の道路整備が進み、交通量が飛躍的に伸びて来ており、国道19号に出る事が多くなり、渋滞が発生しています。このため寺上町中央道下および久尻保育園から西原町を通り国道19号へ抜ける事が、この地域の生活環境が大きく変わり大変危険になっています。 令和2年度、概略検討資料作成中の回答を戴きましたので、その検討資料の開示と早期に実現に向け取り組むように強く要望します。 要望場所：国道19号線池ノ上交差点から県道土岐可児線五斗蒔まで
R3-4	独居世帯等への防災ラジオの貸出し	継続	令和2年度、防災無線が明らかに聞き取りにくい場合には、「戸別受信機貸出し」をしているので世帯の状況(独居世帯等)に応じて対応して頂けると回答を得ています。泉町民生児童委員にて把握して頂いた防災ラジオの件数は39件です。又、泉西民生児童委員にて把握して頂いた件数は13件です。合計で52件となりました。貸出し支給の対応を早急にお願います。 要望場所：要援護者自宅(独居世帯等)
R3-5	泉公民館の来客者の感染予防対策及びよりスムーズな予約を図るための改善要望	新規	① 公民館の利用には事務室にて手続きをする必要があるため、不便であり感染症予防の観点から安心安全が保たれにくい状況にあります。 要望として、公民館玄関右側事務室の間仕切り(一部の下駄箱の撤去とパーティションの見直し) 玄関側の専用受付窓口を新設し、それに伴う受付台の設置を要望します。 要望場所：土岐市泉中窯町1-1 泉公民館

令和三年度、泉町から土岐市への要望事項

泉町連合区会長 額 健二

コロナ禍で大変な時期ですが、泉町の皆様はいかがお過ごしですか。コロナ予防ワクチン接種が進み、年度内には希望される方々の接種が完了できるような状況です。気持ちがいずれも落ち着けそうで嬉しく思います。

さて、令和三年度の要望事項を取りまとめました。六月の泉町連合区会での承認を得て、六月中旬に土岐市役所へ提出いたしました。「安心・安全な街づくり」、「住み良い街づくり」を指し皆様と共に活動していきます。

〈要望事項の説明〉
要望事項は、R3-1) 5の五項目です。内訳は施設の建設促進・修繕が三項目、道路の建設一項目、その他で一項目となっております。

*R3-1(継続)
新泉公民館建設促進要望です。現公民館は築四十年が経過しており、残りの耐用年数が十年となりました。老朽化のため、多くの箇所が経年劣化しており、塗装が剥がれ、床が腐食しています。令和二年度の回答では次年度以降検討とされており、測量等の予算の検討をお願いします。

*R3-2(継続)
泉児童館の修繕・環境改善です。①遊戯室床の修繕。令和二年度の回答では次年度以降検討とされており、測量等の予算の検討をお願いします。



泉公民館

事務所入口



遊戯室



泉児童館

ですが、子供たちのためにより具体的な回答を望みます。また、②冬場を安全でより快適に活動できるように、床暖房の設置を要望します。

*R3-3(継続)
道路の建設要望です。要望箇所は国道一九号線池ノ上交差点から県道土岐可児線五斗蒔までの区間。令和二年度概要検討資料作成中の回答を得ております。作成検討資料の開示と、早急に実現に向けた取り組みを強く要望します。

*R3-4(継続)
防災ラジオ貸出しの要望です。令和二年度に、防災無線が明らかに聞き取りにくい場合には、主に独居世帯等の世帯状況に応じて防災ラジオの貸出しの対応を得ています。民生児童委員把握による必要台数は泉地区三十九台、泉西地区十三台で合計五十二台。貸出しの対応を早急に願います。

*R3-5(新規)
泉公民館の施設修繕です。利用者のコロナ等感染症予防対策と、よりスムーズな利用者対応を図るための要望です。

以上五項目が今年度の要望事項です。詳細は市役所へ提出した要望事項を参照してください。

〈終わりに〉
そのほか、この場をお借りして、令和三年度の泉町民運動会の中止をお知らせします。別途、回覧文書を出します。今年度もいろいろないイベントや行事が中止や延期になっております。このような状況下ではあります。泉町連合区役員一同、早い状況好転を願います。

泉町連合区の活動に對しまして、今後ともご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

『地元消防団』

泉分団団長 伊藤 真

大規模災害と通常災害時の消防団活動の違いについて簡単に話してみたい。

南海トラフ地震の震源域は、東海から九州までの東西七〇〇km、最大M九・一、広い範囲で震度七が推定されています。今後三十年の発生確率は七十%から八十%に引き上げられました。また、人的被害も死者三十二万三千人が想定され、東日本大震災死者・不明者約一万八千四百人その内家屋の倒壊や火災によって約九万人の人が亡くなると言われています。

最近の研究により、大地震の前兆として固着域周辺で発生すると言われている「スロースリップ」は、南海トラフの西の端日向灘周辺の海底で二〇〇二年一月、二〇〇六年十月、二〇一〇年十月、二〇一三年七月、二〇一五年十月、ゆっくり移動しながら四国の地下から東に広がる固着域周辺にひずみをため込み、繰り返し発生していることが見つかりました。東海地方では浜名湖周辺の地下でも同じように繰り返し発生し大地震の切迫性を高めています。南海トラフ地震に関連する情報の「臨時情報は、大地震の前兆と思われる異常な状況を観測し、大規模地震の可能性が高まっている時に発表されます。前兆なく突然巨大地震が起きる事もあり得ます。臨時情報が出たときにどのような

に対応するかあらかじめ各家庭（家具の固定・避難場所・非常食確保）で考えておくことが大切です。

土岐市でも震度五強から六弱程度の揺れが数分間続くと言われています。最悪の条件下に於いては、同時多発的に発生する災害に土岐市の消防員（各種資機材・消防職員）をもつてしても、土岐市全体のすべての災害には対応できないと思われまます。

そこで頼りになるのが地元消防団です。各地域の消防団は管轄地域があり、大災害になれば基本的に地元中心に消防団活動を行います。泉町全体を管轄し五千三百帯の安全を五十三人の団員で消火、救出活動、避難道路の確保と通常の単発的災害なら少々の定員割れでも訓練を重ねる事でカバーできますが、同時多発的に発生する大規模災害には到底対応できないと考えられています。多くの災害が発生した場合は出動する対象物に優先順位を付け消防団本部の指示により活動します。泉町と同時に発生したすべての災害を管轄する北消防署が対応できるのは限りません。だからこそ消防団が必要で、泉分団の団員定数は五十三人、令和二年四月に希望退団により、分団員総員二十六名になる所不足は三十年以上前から言われている事ですが、

大きな災害が起きたら頼りになるのは地元の消防団員です。現在の様に先輩から後輩に、同級生等に依頼し、市内事業所の従業員にお願ひするのにも限界だと感じています。泉町六十町内会の元消防団員の方々の協力を頂きながら、各町内からの推薦制度を立ち上げて頂けたら幸いです。

最後に泉分団からの提案ですが、安定的に団員の定数確保をするために、泉町連合区にお願ひして消防団員推薦制度を立上げ、規約等も作成して頂き、泉町五区長及び各町内会長にご理解を頂き約五千三百帯を対象に、二百世帯で一名の消防団員（任期二年）の二十六人程度の推薦をして頂けたらと思っております。ぜひご検討をお願いいたします。泉分団は地元の災害に全力で対応します。

美濃陶磁歴史館特別展 『小山富士夫と美濃』に向けて

泉町市議会議員団長 和田 悦子

泉町の陶芸村にある「花の木窯」はご存知でしょうか。陶磁研究では世界の第一人者であり、陶芸家でもある小山富士夫氏が作陶された窯です。「花の木窯」と名付けられました。すでにこの地で四十六年前、七十五才で亡くなっています。土岐市に縁があった小山富士夫氏はどのような方だったのでしょうか。少しご紹介いたします。

小山氏は全国の古窯を巡り調査されているうちに、美濃の地がすっかり気に入られ、土岐市初代の二宮市長と親交もあつたことから土岐市に招かれ、鎌倉市から土岐市の陶芸村に住まいを移されました。かつて土岐市で講演されたことがあり、その講演録には「桃山時代、この付近では、日本で最も重要な焼き物が作られていました。志野、黄瀬戸は大萱ですが、赤志野は高根、織部は元屋敷

の定数確保をするために、泉町連合区にお願ひして消防団員推薦制度を立上げ、規約等も作成して頂き、泉町五区長及び各町内会長にご理解を頂き約五千三百帯を対象に、二百世帯で一名の消防団員（任期二年）の二十六人程度の推薦をして頂けたらと思っております。ぜひご検討をお願いいたします。泉分団は地元の災害に全力で対応します。

鼠志野は隠居山、と重要な窯跡があり、日本陶磁史の重要な所です。土岐市はまさに陶芸の宝庫である」と記されています。戦後日本の陶芸の発展のために多大なる貢献をされ、今日の現代陶芸の隆盛をもたらした方です。世界陶磁史にも名をなされ、優れた陶芸家でもある小山氏は東京国立博物館の文化財保護委員の時に、人間国宝制度を創設され、荒川豊蔵氏を人間国宝として推薦された方でもあります。

世界の多くの国から功績を認められ、いろんな国で講演をされております。まさに陶芸の分野におけるルネサンス的人物であり、これだけのスケールの大きい作家はみあたらないと、どの書物にも高い評価が書かれています。

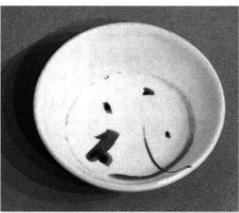
ただ、残念だったことは国の重要文化財に指定された「永仁の壺」が偽物であつたという事件があ

りました。そのことで小山氏は責任をとってその文化財保護委員の職を自ら退かれました。実は、後に「永仁の壺」は、後に加藤唐九郎氏が「自分が作った」と証言されて決着しました。その後、加藤氏に対して小山氏から非難めいた言葉は一切聞かれなかったということですが、その後も加藤氏と親交は続きました。

小山氏は不正、不純をきらう孤高と反骨の精神をもたれており、ゆがんだ世の中を見つめる社会感覚も持たれていたようです。自らに厳しく、他人には寛容であり、また天衣無縫な性格の持ち主であつたというところで、後にも先にもこんな研究者はいない。まさに破格の人物といふべきだろうと、彼とのかかわりを持つた誰もが口をそろえて彼の魅力をたたえています。

人間国宝級の實力を持ちながら、名声を求めることには執着しなかつた彼の性格が今になってみると残念でなりません。しかし、そういう生き方をした小山氏だからこそ、多くの人が魅了されてしまつたでしょう。作品には小山氏の暖かい人柄が表れているということです。

美濃陶磁歴史館では、令和三年九月十七日から翌年二月十三日までの約五か月間、「小山富士夫と美濃」の特別展が開かれます。是非、足を運んでいただき小山ワールドを楽しんでください。



小山富士夫作 花 壺

スマイル・フアースト

青少年育成会長 安江 年正

泉町育成会の安江と申します。本来であれば、五月に行われる予定であつた「泉町笑顔の集い」の報告とご協力頂いたみなさんへの感謝の気持ちをお伝えする場だと思っております。しかし、コロナウイルス感染の直前の状況を踏まえ、「開催中止」の判断をさせて頂きました。それまで開催に向けてご協力頂いた方々には、誠に申し訳なく思うと共に、今後も変わらないご支援をお願い申し上げます。

泉町の青少年育成につ

育成会に関わり始めた頃から、私は「例年通り」をなるべく排除することに注力してまいりました。それは、育成会という組織がある程度長期的に取組むことを許される組織であつたこともあり、毎年反省と改善を繰り返すことで、行事も機能もより良くなつていくことを実感してまいりました。それなりに上手に出来るようになったという自負もありました。しかしながら、昨年来のこのような状況に陥つたことで、私たちは、取り組みの根底からの見直しや、再構築（再生）を迫られている様にも感じています。まだまだ結論は出ないと思えますが、育成会が、大きなターニングポイントを迎えていることに疑いの余地は無いと思つております。

平成から令和に変わつてから早々に、多くの「事体」について一時的から永続的に変化している昨今、子ども・家庭・地域・社会は、その変化に対応しながら新しい生活を切り開いている状況にあります。その様な中で、各々が考え実行するその「工夫」と「努力」は、時として「感動」をもたらすことさえあります。青少年育成を取り巻く組織や団体、それを支える地域・家庭、そして何よりも子供たち自身の「未来」の為に、この苦難を共に乗り越えていきたいと思つております。

「スマイル・フアースト」で。

先日、泉西公民館の山田利彦館長から、「孝助の嫁」という民話を知っていますか。育成会議の中高生達が自分たちで見つけてきた泉の民話です。それを笑顔の集いで劇で発表するために取り組んでいたけど、笑顔の集いが残念ながら中止になってしまつて、せつなくなくて、この民話を自主だよりに載せてもらえませんか。」という依頼がありました。

昔話 孝助の嫁

6月5日(土)に行われた「花いっぱい運動」の様子 Izumi Smile Teamのみなさんと「花の苗」を配布しました。

孝助の嫁



ずつとむかし、大富池の周りは、大きな木がいつぱいはえていて、こわいほど大きな森のなかにあつたんだ。この森を三輪の森というて、なかほどに大きな塚もあつてさ。この塚はな、ずつとずつとむかし、ここに住んでいたえらい人の墓だといふが、昼でも暗くて不気味な森だつたよ。その中央を、一人歩くのがやつとぐらゐの細い道が通じていたんだ。

この道を通らなければ町へ行けない村の人達は、二人三人がさそひ合つて出かけて行つたもんだと、森の北にある里に、孝助という親孝行な息子が、おかあさんと二人で住んでおつたんだ。またひとりもんだが、毎日田畑に精を出す働き者だつたさ。

雪の降る寒い冬が過ぎて、森の木も芽をふいて、池の周囲は緑一色に変わろう頃じゃつたよ。やさしいおかあさんが、目の病にかかつてしもうたんだ。

「おつかあ。おらあ、薬買いに行つてくるで」

「ほうか。すまんのう」

孝助は町まで薬を買いに出かけたんだ。いつもなら、二人三人連れだつて行くんじやが、きよはそんなこといっておれん。孝助は森のなかをどんでんこいってんじや。

「孝助、森のなかをどんでんこいってんじや。はよう森をぬけたいと走つて通りぬけてさ、薬屋についたときは、ちよつとほつとしたもんさ。」

「孝助、森のなかをどんでんこいってんじや。はよう森をぬけたいと走つて通りぬけてさ、薬屋についたときは、ちよつとほつとしたもんさ。」

「孝助、森のなかをどんでんこいってんじや。はよう森をぬけたいと走つて通りぬけてさ、薬屋についたときは、ちよつとほつとしたもんさ。」

「孝助、森のなかをどんでんこいってんじや。はよう森をぬけたいと走つて通りぬけてさ、薬屋についたときは、ちよつとほつとしたもんさ。」

「孝助、森のなかをどんでんこいってんじや。はよう森をぬけたいと走つて通りぬけてさ、薬屋についたときは、ちよつとほつとしたもんさ。」

「孝助、森のなかをどんでんこいってんじや。はよう森をぬけたいと走つて通りぬけてさ、薬屋についたときは、ちよつとほつとしたもんさ。」

「孝助、森のなかをどんでんこいってんじや。はよう森をぬけたいと走つて通りぬけてさ、薬屋についたときは、ちよつとほつとしたもんさ。」

「孝助、森のなかをどんでんこいってんじや。はよう森をぬけたいと走つて通りぬけてさ、薬屋についたときは、ちよつとほつとしたもんさ。」

よ。これじゃ動けないや……

「かわいそうに、今とつてやるよ」

「と、とげをとつてやり、傷口を池の水で洗つて、薬草の汁をつけ、手あてをしてから、

「気をつけやあよ」とはなしてやつたのさ。子ギツネは、かわいい目をくりくりさせ、孝助を見い見い森に消えたんじや。

「孝助、森のなかをどんでんこいってんじや。はよう森をぬけたいと走つて通りぬけてさ、薬屋についたときは、ちよつとほつとしたもんさ。」

で田畑で精を出していたんだ。そのうちに嫁さんのお腹が大きくなって、月日がたつて赤坊を生む頃になつたんだ。

「私が来てというまでは、絶対に見にきちやこまりまして。約束しておくれ」といひ残してさ、奥の室へ入つてしまつたんだ。

そのうちに、オギヤア、オギヤアと元氣な泣き声がしてきたんじや。泣き声聞いて、孝助は子どもを見たかと思つても、嫁さんとの約束があつてさ、見ることができないんじや。

「あつ」

この子に私は金の棒をあげます。この棒さえあれば、無事で丈夫に成長するでしよう。十八の年にこの棒を白い花の咲く木の下に持つて来ておくれ」といひ残すと、すつと消えてしまつたんじや。

「孝助、森のなかをどんでんこいってんじや。はよう森をぬけたいと走つて通りぬけてさ、薬屋についたときは、ちよつとほつとしたもんさ。」

した。その中の「役行者碑」が倒れていました。



立て直された石碑など

もらいたいという先人の願いが受け止められます。

次に、茂みの後ろ、桜の根の横に倒れていた役行者碑です。寛政十一年（一七九九年）に己未二月吉日、當村本郷窪郷中「講中十二人」と記されています。久尻の里（大杉緑朗著）には、「この旧道は、清安寺への参道であり、ある一人の修行者がこの地で倒れたと伝えられたと伝えられ、それ以後近所の人々により行者塚として篤く供養されてきた」と伝えてあります。碑は修験道の開祖役行者の碑で、豊かな自然の恵みと、自然の脅威からの安穩を願う崇拝する人々が講を組織したものです。

その南側は、寛政十二年（一八〇〇）年七月の年号の「百萬遍供養塔」があります。供養塔は、疫病退散の行法を行ったことを示すため供養の塔などに建てられたものです。「役行者」の碑とそれの翌年に建てられたこの塔から、当時の世の中に不安が続いていたことが見えてきます。

「役行者碑」が作られた前年、寛政十一年（一七九九年）四月と七月に木曾川や長良川が前代未聞の大洪水をおこしています。濃飛両国通史には、四月の被害について「特に木曾川が甚だしく、恵那郡坂下村の耕地を没し、加茂郡では流出家屋が多く死者二十余人。羽栗以南

伊勢・桑名まで一面海の如く」とあります。土岐郡と同じようであったと想定できます。また、多治見市史には、寛政十二年大原村でチフスが流行し、九十余戸で死者が六十人に及んだと記されています。自然災害とそれに続く疫病の流行に對し、当時の人々が不安から神仏にすがつていたことが感じられます。

設置時期不明の「光明真言百萬遍供養塔」や「南無阿弥陀仏」の碑も同じでしょう。

最後に手洗石ですが、これには昭和七（一九三二年）年「講中安全」と記されています。記名は二十名。内、十九名は女性とされています。前年の九月には、三國山を震源地とする地震があり、この年は、大雨で土岐川や周辺河川が氾濫した記録がありました。

それぞれ時代の石造物にその時代に生きた人々の願いが込められていることが分かります。旧文化会館へ向かう道には、このような石造物が祀られていたのです。そして、旧文化会館の下には、厄除けの牛頭天王を祀っていた三元村社津鳴神社跡の碑もあります。

参考文献
○本文中に記したもので外
○岐阜県史
○土岐市史
○泉村誕生百年記念「ふるさと泉 産業文化編」
○石造物調査報告 荒川孝志 氏 他

倒れてゐた役行者碑
大坪町内の石造物群

史料整理室(旧文化会館内) 額 綴 茂

令和元年十一月に泉大坪町二の町内会から「倒れてゐる行者塚」を直したい。そこには、他の石造物もあるので、どんな

ものか教えてほしいと依頼を受けました。翌日、現地へ行くと、石碑が四体。石塔が二塔と手洗石の七つの石造物がありま

土岐津駅建設記念碑

久尻区 川上 保男

多治見く中津川間(中央西線)の開通は、明治三十五年十二月二十一日、この時に土岐津駅が開設した。この碑は、山村益吉氏他十六名の方々に久尻区内(緑ヶ丘)の山中に、記念碑(高さ五m幅一・四m)を建立された。当時は、駅からこの碑まで観られる様相であったと考えられる。時が過ぎ、碑の周囲は常緑高木に囲まれ



(記念碑の位置は、緑ヶ丘町内倶楽部前の道を山側に150mほど上がった右側の山中)
*緑ヶ丘町内倶楽部に付近の案内図があります。

久尻の里山を愛する会

久尻区「やすらぎの森」に待望の展望台が、寄贈されました。アクアシルヴァ協議会(十社)様が「久尻の里山を愛する会」の趣旨をご理解いただき令和三年四月十二日神戸峰夫様・久尻区の市議会議員・市関係者・報道機関・里山を愛する会等四十名が参加して贈呈式(アクアシルヴァ協議会様主催)が行われました。これで、里山の季節の移り変わりをより一層楽しめようです。



取材を受ける河合哲心会長。

「戦争を知りなす子でも達」世代が、知った、調べた、泉町と太平洋戦争

安藤 新平

今年も八月十五日の終戦記念日がまたやって来た。去年も、一昨年もやってきた。でも、七十七

年以上はさかのぼれない。今年で七十六回目、「そういえば実家のおじさんも生きていれば、今年で百

歳か。」などと思いつつ、「泉町と太平洋戦争」というテーマで、これまで泉町内で実際に見てきたことをまとめてみた。一、泉小学校的の考える人

戦時中に武器生産に必要な金属資源の不足を補うため、金属供出が日本中で行われたことが知られている。泉小学校的の場合、校門脇の「考える人」像の台座に、土本善七氏寄贈の二宮金次郎像が戦時中に供出され、その代わりに戦後加藤真司氏が考える人の像を寄贈したことを記した銘板がある。また、考える人の像の反対側にあるタイル製の地球儀のモニメントは、経年劣化のためタイルがはがれたり、由来を記した銘板が判読不能になっていた。

前田教頭先生に調べていただいたところ、明治四十一年の泉小学校尋常科卒業生が初老記念に寄贈した大楠公(楠木正成)の像が、戦時中に供出されたので、戦後還暦記念として再度地球儀を建設したこと、寄贈者三十四名の氏名が記されていたことがわかった。

松根掘り、戦没将士の町葬や陸軍の物資疎開に使われた講堂など、戦争が泉小学校的の学校生活に大きく関わっていたことがよくわかった。

妹尾河童氏の小説「少年H」に校長先生が「いよいよ二宮金次郎さんの銅像も出征することになりました。銅像は敵をつための大砲の弾になるのです。今日皆さんは、下校する時金次郎さんにお別れしてください」と訓示する場面がある。泉小学校的でも、きっと同じようなことが当時行われていたと思う。

二、仲森池の慰霊塔
忠霊塔や忠魂碑は各地に建てられていて、泉町では、仲森池横にある忠霊塔で、毎年慰霊祭が行われている。この慰霊塔は、太平洋戦争だけでなくそれ以前の日清戦争などの泉町の戦死者も含めた慰霊の塔である。また、忠霊塔のそばに、シベリヤ抑留の慰霊碑もあり、八月十五日の終戦と同時に、戦争は終わらなかつたことを伝えている。

社会科の授業では、このような慰霊碑にある戦死者数を調べ、児童の住んでいる地域の戦争の被害の大きさを考えさせることがある。

三、戦争と焼き物
資料集「泉の町」の窯業の記述に、「昭和十六年に入ると、太平洋戦争が避けられないという中で代用生産割当がなされるようになり、原料、燃料の割当がなされるようになった。」とあり、泉町でアイロン、煙管などの生活用品を、様々な金属製品の代用品が約百五十種類作られたことがわかる。

骨董市などをのぞいてみると、これまでにナイフやフォークや缶詰、おろし金、栓抜き、煙管などの陶器製の代用品を手に入れることができた。国の統制経済政策の下、当時作られた陶器には、製造者に割り当てられた「岐〇〇」といった統制番号が記されており、原料や燃料の割り当てを物語っている。また、この時期に企業整備令によって製陶所の統廃合がなされ、昭和十九年には、六企業体にまとめられ、多くの製陶所が転廃業を余儀なくされた。

骨董市で従軍記念や除隊記念の杯などの陶磁器を見かけることがある。しかし、これらは、太平洋戦争開戦による戦争の長期化に伴う深刻な物資不足と、戦局の悪化によって製造の前提となる無事の帰還を遂げる兵士が激減したことで、記念品の製造は減少した。だが、昭和二十年の敗戦に至るまで細々ながら製造されて



いた。数年前、五月の連休に行われる定林寺の窯巡りで、MADE IN OCCUPIED JAPANと印された皿を見つけた。これは、敗戦から昭和二十七年にサンフランシスコ講和条約が発効するまで、日本が連合軍総司令部(GHQ)に六年間占領されていたことを示すものである。輸出品には必ず「印されて、戦後の経済復興の一助となった。」

四、終わりに
私の子ども時代を振り返ってみると、少しではあるが防空壕跡など戦争の形跡が残っており、そこで遊んでいた。私は東濃地方で育っていないが、職業柄戦争について考えることがあり、定年退職した現在も、興味関心を持っていて。今残念に思うことは、祖父や父など戦争を体験した身内に、当時の話をしっかりと聞いておこなったことである。ひよつとしたら、語りたくない思いをしていたのかもしれないが、自分が集めた代用品などの資料が、所在不明となり、元自治会長の丹羽さんの紹介で、山内房壽さんの事務所にある陶磁器を撮影させていただきました。

今回この文章を書くにあたり、「ご協力いただいた方々にはこの場を借りて、感謝いたします。」

オリエンティックは開催されたが、町内の行事は次々と「コロナ禍のため未定・中止」を余儀なくされました。紙面をどう理めていくか悩むところですが、そんな状況の中、原稿を提供いただいた方々には、今回も大変感謝しております。今号は、取り上げた内容が歴史ものに偏りすぎて、できるだけ現場へ出かけて、原稿をいたたくと、できるだけ現場へ出かけて、その雰囲気を実感したり、写真を撮ったりして、お話を聞いたりして、私も学ばせていただいております。泉公民館内の泉町連合区事務局へ、これからも原稿や情報を提供していただけると有り難いです。

令和3年度泉町のイベントカレンダー (10月~11月)

	イベント	主催	開催日	会場
10	泉町民運動会	泉町連合区会、泉・泉西公民館	中止	
	秋の例大祭	久尻、白山、八幡、稲荷各神社	10/10(日)[神事のみ]	各神社
	美濃焼伝統工芸品まつり	美濃焼伝統工芸品まつり実行委員会	中止	
	土岐市スポーツ少年団秋季大会	土岐市スポーツ少年団	10/17~10/31(土・日)	土岐市総合公園
	土岐市美術展 (幼少年の部)	土岐市文化振興事業団	10/23~24	文化プラザ
	ふれあいウォーク	泉町青少年育成会	未定	未定
	泉中学校吹奏楽部定期演奏会	泉中学校	10/10(日)(変更あり)	泉中学校
11	七五三	久尻神社・白山神社	11/13~14	久尻神社、白山神社
	土岐市美術展 (一般の部)	土岐市文化振興事業団	11/13~14	文化プラザ
	泉町公民館祭	泉公民館、泉西公民館	11/16~21(展示のみ)	泉公民館、泉西公民館
	土岐市農業祭	土岐市農業祭実行委員会	未定	未定

※本年度の各種行事につきましては、新型コロナウイルス対応にて変更の可能性がありますので、実施については各主催者にご確認下さい。
※令和3年1月~3月のイベントにつきましては、予定未定の行事が多いため、12月号 (No.140) でお知らせ致します。